

CJK 互換漢字とは、Unicode ならびに ISO/IEC 10646 において、CJK 統合漢字とは別に、他の文字コードとの互換性のために用意されている漢字の符号位置です。

CJK 互換漢字にはいくつかの由来があります。例えば、韓国 KS X 1001 における重複符号化された漢字や、JIS X 0213 や台湾の漢字コード規格 CNS 11643 における CJK 統合漢字で包摂される字体などです。前者 KS 規格における重複符号化は同じ漢字を発音の違いによって複数の異なる符号位置へ配置したもので、図形文字としては KS 規格においても本質的に同一のものですが、一方 JIS や CNS のものは図形文字として区別されるべきものとして定義されています。異なる性質のものですが「互換」という名目で一緒に扱われています。

## JIS X 0213 と CJK 互換漢字

JIS X 0213 では JIS X 0208 で包摂されていた字体のうち、人名用漢字として許容されている字体や、常用漢字表で過去の字体とのつながりを示すために掲示されている所謂康熙字典体を、意図的に別区点に割り当てています（人名許容・康熙別掲）。

JIS X 0213 の文字が Unicode に追加された際、これらの漢字のうちいくつかは、Unicode では、CJK 統合漢字に既に包摂されている字体であるとして、独立した符号位置を与えられませんでした。しかしそれでは JIS X 0213 とのコード変換に問題を生じることから、互換漢字の符号位置が割り当てられています。互換漢字の符号位置は BMP では U+FAxx のような位置にあるので、符号位置によって CJK 統合漢字との見分けがつかず、（なお BMP だけでなく面 02 にも CNS 規格用の CJK 互換漢字が用意されています）

## 互換漢字の問題

CJK 互換漢字は Unicode 正規化の操作によって対応する CJK 統合漢字に置き換えられてしまいます。これは、4 つある正規化形式のいずれでも同じです。

したがって、例えば、JIS X 0213 で追加された「示へんの形が『示』の『神』」（JIS 第 3 水準、面区点 1-89-28、U+FA19）が、Unicode 正規化によって「『ネ』の『神』」（第 1 水準、1-31-32、U+795E）に変わってしまうことになります。

## 関連項目

- ・ CJK 統合漢字
- ・ 人名用漢字